

寺 寶

本尊 薬師瑠璃光如来

(脇侍) 日光菩薩・月光菩薩

(江戸後期・黒田高山作)

天台宗

(本山) 比叡山延暦寺(滋賀県)
高祖(中国) 天台大師智顛禪師
宗祖(日本) 伝教大師最澄上人

立教開宗

中国の天台智者大師がお釈迦様御一代の
教えのうち最もすぐれた法華経を中心とし
て天台宗(五七五)をお開きになり、其の
後伝教大師が中国に渡られこれを伝え延暦
二十五年(八〇六)、密教、禅法、戒法、
念仏を實踐の法門として日本天台を開かれ、
日本仏教の根源となった宗旨で、各宗のお
祖師様、法念上人(浄土宗)親鸞上人(浄
土真宗)榮西禪師(臨済宗)道元禪師(曹
洞宗)日蓮上人(日蓮宗)一遍上人(時宗)
等が比叡山に登山修行されました。

古文書

寺澗院住職記 十三冊
蓋簿(過去帳) 一冊
什物帳 一冊

徳川十一代將軍家齊公創建

蝦夷三官寺筆頭



天台宗
歸嚮山
厚澤寺

等澗院

〒〇五八一〇〇二六

北海道様似郡様似町本町二丁目
電話(〇一四六三)六一二二六三

六一四二六七

等澗院は、文化三年（一八〇六）に徳川幕府に建立された直轄のいわゆる「官寺」で、等澗院（天台宗）を筆頭寺院として、有珠の善光寺（浄土宗）厚岸の国泰寺（臨濟宗）の三ヶ寺を蝦夷三官寺として、寺禄（官費）により維持管理された寺院です。

等澗院が建立された由来については、寺伝によると「蝦夷地にロシアをはじめ外国船の横行が激しくなり、それにつれて横暴な事件も起こるようになった。侵略の驚異を感じた幕府では、蝦夷地の自衛と海防論が高まり、その対策として開拓移住を奨励した。時の函館奉行、戸田筑前守羽太庄左衛門は、永住のためには宗教による民心の安定と教化が急務と考え、新寺建立の儀を中央幕府に建言したところ、三官寺の建立が文化元年（一八〇四）許可され、文化三年（一八〇六）竣工落慶のはこびとなった。」

等澗院の総本山は、京都、滋賀県にまたがる天台宗比叡山延暦寺であるが、当初は江戸の天台宗東叡山寛永寺（輪王寺宮）の末寺で、初代住職に、上総（千葉県）芝山観音教寺の四十二代住職貫宗秀暁師が任せられた。等澗院の勤行区域は、勇払からえりも町までで、就任まもない秀暁師は、文化三年えりも町百人浜の海岸で起きる海難事故で亡くなった。多くの人たちの海難供養として「一石一宇塔」を建立した。また、現在の護摩堂は、初代秀暁師により、国家安泰と民衆の平和を祈願する道場として、文化四年（一八〇七）に請願されたが、その落成を見ることなく、文化四年十一月十一日に遷化、四年後の文化八年（一八一二）、第二世住職慈順代に建立された。

第三世住職恵統代の文化十年（文政五年）には、数度の熊の害等により会所長家に逃避し、その三年後文政四年（一八二二）には現在地へ移転した。第八世住職の慈真師は、住職記録等関係書類の整理をおこない、勤行には馬にまたがり巡回したことから「馬追い上人」ん愛称で呼ばれていた。

徳川幕府の消滅によって等澗院は明治九年頃より住職不在となり、明治十八年（一八八五）廃寺となった。

明治二十三年（一八九〇）、塚田純田師が総本山比叡山延暦寺より派遣され、明治三十年（一八九七）再興の認可を得て、等澗院第十三世中興の祖となった。等澗院が建立されて以来八十年間徳川幕府の繁栄とともに栄華をきわめ、幕府の崩壊とともに衰退の一途をたどった。特に廃寺となった時期は、国内争乱の中で大政が奉還、明治維新へと移った激動の時代であった。

（平成十八年には、建立二百年を迎える古刹であります。）